

くらしの相談センター 多摩 ニュース NO. 27

今年4月で開設2年になった「くらしの相談センター多摩」 たくさんの方々の支えで相談活動を続けてくる事が出来ました。2011年度も多くの人との出会いがありました。



『くらしの相談センター多摩』相談内容のまとめ

……1年間の活動は？……

相談内容	2011年度 件数	2010年度 件数	累計件数
医療・介護	17	26	43
法律・弁護士・司法書士 等への紹介	19	17	36
住宅問題	14	15	29
生活保護	13	12	25
債務(多重・借金・保証人)	4	9	13
子どもの問題(教育・保育園)	10	8	18
年金・保険	3	5	8
就職	4	4	8
相続	4	4	8
税金(所得・住民・滞納)	3	3	6
離婚問題	1	2	3
不動産	1	2	3
事業経営	1	2	3
交通事故	1	1	2
市への要求	8	1	9
確定申告	24	18	42
その他	20	8	38
合計件数	147	137	284

2011年度の相談内容と件数を左表にまとめました。

昨年同様、この1年も本当に様々な相談がありました。

「医療・介護・法律・住宅・生活保護」に関する相談が全体の43%を占めていました。今、人が人間らしく生きる事に困っての相談です。

未来に大きな不安を抱え、政治不在のこの日本！

『くらしの相談センター』の実態が明らかになっています。

私たちはひとり一人つながる事がとても大切です。

『くらしの相談センター多摩』を寄りどころにしてお互い助け合い共に生きて行きましょう。

これからも多くのみなさんのご支援をよろしくお願いいたします。



*2010年4月11日～2012年3月31日の相談件数を年度別に集計
 (1人で複数の相談内容がある場合は複数件としています。)

●2012年4月の相談件数 10件
 ●2010年4月からの 総件数 294件



所長の視点

*** 開設2周年によせて ***



「くらしの相談センター多摩」は開所して2年の節目を迎えることができました。

当初は、どれだけ続けられるだろうかと不安がいっぱいでした。2年間続けられたのも、たくさんの方の支えがあったからこそです。

本当にありがとうございました。

この2年間に様々な相談を受けてきました。世の中にはものがあふれ、お金さえあればとても贅沢な暮らしをすることができます。しかし、それを満喫できるのはほんの一握りの人たちだけで、わずかな年金をどうやりくりするのかということに悩み、ちょっと病気をすれば、もうくらしに困るという綱渡りの日々を送っている人が圧倒的に多いということを実感する日々でした。

寄せられた相談を、すぐに解決できるときもあれば、なかなか難しい問題もあります。働きたいのに働く場所がないという相談は、センターだけでは難しい問題の筆頭です。国が政策として正規雇用者を減らし、安い給料でこきつかえる非正規雇用を

2012年6月専門家による相談予定

* 法律相談 — 川崎北合同法律事務所内田弁護士

第3火曜日・6月19日 18:00~20:00

・要予約 ・時間が限られています。

相談内容の要点をまとめてください。

* 育児相談 — 稲田助産院藤井よし江助産師

(毎月第1火曜日)・要予約お電話ください。

* 税金 相続 登記 医療 福祉 介護 年金 教育
住宅 ペットの相談

◎専門家が随時対応します。電話で要予約◎

* よろず相談 — 所長・井口まみ市議員が
すばやく相談に応じます。

・月曜日~金曜日・第1土曜日(6月2日)

(相談時間 10:00~14:00)

相談時間については電話でご予約ください。

・休み・・・土(第2・3・4)・日曜・祝日

・お盆・年末年始

・電話・・・044-949-6674

おいては、高齢者や障害を持っている人たちまで包み込んだ雇用は増えません。

センターでは、こんなひどい政治を変える努力をしながら、少なくとも「誰にも相談できずに悩んでいた」という人をなくしたいと思ってきました。誰かに相談できれば希望の光は見えるのです。生きていこうという気持ちになれる。そう信じてきました。

ある自営業の方は、病気さえしなければ、会社も立派にやっていたはずでした。しかし働けないだけでなく、医療費が月に7万円もかかるようになり、借金が重くのしかかり、法律相談でも家の売却と自己破産を勧められました。ふんざりがつかず、センターに相談がありました。「自分の人生は何だったのかと思うと、多摩川に身を投げたくなった」と悔しい思いを訴えられます。私も涙がでました。でも、お孫さんの話もたくさんして、「運動部の選手になった孫たちの試合の応援に行くことを目標に、まず体を治すことに専念しよう」と思うようになり、「ああ、相談してよかった」と言われました。何の解決にもなっていないのですから、自らの非力さを自覚するとともに、生きる希望だけは持ってもらえた、その役割は果たせたのかな、と思いました。

「何かあったら相談センターに電話するように、柱にチラシを貼ってある」と言う方、「看板をみていて、困ったらここにくればいいと思っていた」とおそるおそる入ってくる方たちがおられることを、私たちスタッフはしっかりと自覚して、一人でも苦しみから脱出できるように、これからもがんばっていきたく思います。

ああ、しかし、そのためには運営資金がころもとないのです。月500円の賛助会員が200人以上いないと、イベントなどの臨時収入に頼る不安定な運営になってしまうことも、この2年間で明らかになりました。賛助会員はまだ130人。このままではあと何年持つか。政治をよくして、こんなセンターがなくてもよい国になるまでがんばるために、みなさんのもう一回りのご支援を心からお願いします。